

©SCHRAMM FILM/BR/WDR/ARTE2014



生き抜けど
尽きぬ苦悩

としての追体験をすることも大事」と話す。

*

29日公開の「あの日のように抱きしめて」(独、1時間38分)＝㊸＝は終戦直後のベルリンが舞台。強制収容所から奇跡的に生還したネリー(ニーナ・ホス)は、大けがをした顔の手術の傷が癒える頃に夫のジョニー(ロナルト・ツェアフェルト)と偶然再会する。夫は顔立ちの変わった妻に気付かないまま「収容所で死んだ妻になりすまし、妻の財産を山分けしよう」と持ちかける。

「ホロコーストを描く映画は解放されてめでたしめでたしと終わるものが多く『その後』が描かれるのは珍しい」と立命館大の高橋秀寿教授(ドイツ現代史)。「ジョニーは過去のことは忘れ財産を手にすることで新たな生活を始めようとしている。ネリーは戦時中は社会に弾圧され、戦後には信じていた夫に裏切られる。戦争からの復興を目指す社会と、居場所を無くしたユダヤ人たちをシンボリックに表しているように感じた」と話す。【花澤茂人】

戦中戦後のユダヤ人描く映画続々

㊸

少年が見た
人間の暗部

©2013 Bittersuess Pictures



戦後70年。第二次世界大戦中やその後のユダヤ人の姿を描く映画の公開が相次ぐ。

15日公開の「ふたつの名前を持つ少年」(独・仏、1時間48分)＝㊸＝は、ナチスの手を逃れ生き延びたユダヤ人少年の実話。生きる勇気を感じる作品だが、「ナチスのキッチン」などの著書のある京都大の藤原辰史准教授(食の思想史)は「もっと具体的な歴史の暗さを注意深く読み取る必要がある」と指摘する。

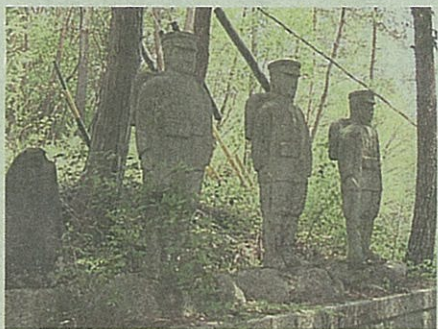
ゲッターから脱走したスルリック(アンジェイ・トカチ、カミル・トカチ)は架空の身の上話を覚えて農村などを渡り歩き、ある時は助けられ、ある時は追い出される。仲良くなるもユダヤ人と分かった途端に態度を変える友人や、自分を助けたためナチスに家を焼き払われる人々も目撃する。「大人が始めた戦争によって人間の暗部が傷痕として子供の心に残された。それを引き継いで彼らが生きた20世紀後半も決して幸せな時代ではなかった」。また「日本は戦時中、アジアでこの作品のナチスと同じような立場にあった。想像力を持ち、加害者側

1971
口県防府
shore
echa
。関西で
年以來。

口には「R
he B
5」な
売。「R
なじみの
「21世紀
に触発さ
「工」に夢

メント「軍神～忘れられた兵士たち～」

テレ＝15日深夜(16日午前)1時35分



長野県飯田市にある「肉弾三勇士」の石像＝カンテレ提供

太平洋戦争などで戦死した一般の兵士の中には、戦意高揚の意図から「軍神」と呼ばれ英雄扱いされた者が存在した。

を公募で作った。ブームは過熱し、三勇士はヒーローの宣伝にまで登場。ただ、上官の日記には「死者のこのことのみ思われて仕方ない」と苦悩がうつられていた。

41年の真珠湾攻撃では、魚雷を積んだ小型潜水艦5隻の乗組員9人が死亡。彼らは「九軍神」として祭り上げられたが、乗組員にはもう一人、ハワイで捕虜になった少尉がいた。表向きには「生死不明」とされたが、そ